

ステップ3

「仲間と深める」

～「親の役割」を見つめる～

☆このような機会
活用できます！

- 学年・学級懇談会
- 1日体験入学
- P T A 研修会
- 教育講演会
- 就学時健康診断
- 地区懇談会
- 家庭教育学級
- P T A 役員会

※話したり聞いたりしながら、
「親の役割」を見つめること
ができます。



【プログラム15:よく使う言葉は？ ～言葉の力について考えよう～】

☆ねらい：日ごろの言葉の使い方を振り返る活動を通して、言われたら嬉しい気持ちになる言葉と悲しい気持ちになる言葉があることを確かめ、これからの子育てや生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	言葉の力
時 間	20分
人 数	何人でもできる。(1グループは4人程度がよい)
活動形態	個人からグループ
準備物	ワークシート
主な活動	①自分が子どものころに言われた言葉で、印象に残っている言葉を思い出す。 ②例示の言葉を使って、日ごろの自分自身の言葉の使い方を振り返る。 ③チェックして気付いたことや話すときに気を付けていることを話し合う。
気を付けること	○チェックする例示の言葉は、「場合によっては方言で言うこともある」ことを話すと、より身近なものとして考えさせることができる。
備考	○感じ方の違いの例を「がんばれ」で紹介することができる。 (①「がんばれ」と言われて励ましてもらい、嬉しいと感じる場合と②自分自身は頑張っているのに、さらに「がんばれ」と言われプレッシャーを感じる場合がある。) ○実態にあったアンケート(親から言われて嬉しかった言葉と悲しかった言葉アンケート)の結果(言葉)を示すとより身近なものになる。親が思っている言葉と子どもが思っている言葉の差(ギャップ)に触れて考えさせるアレンジもできる。 ○子どもにも同じプログラムを使うことができる。「家族」への言葉の使い方を考えるという、アレンジをすることもできる。
スタート編との関連	プログラム④：上手なほめ方・しかり方

【プログラム15：よく使う言葉は？】

～言葉の力について考えよう～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○言葉の力</p>
17分	個人	<p>2. 自分が子どものころ言われた言葉で、印象に残っている言葉について振り返る。(数名に聞く)【2分】</p>
	個人	<p>3. ワークシートの例示の言葉を、日ごろ「よく使っている」「時々使っている」「ほとんど使っていない」の3段階でチェックする。【3分】</p>
	グループ	<p>4. チェックして「気付いたこと」や「話すときに気を付けていること」を話し合う。【8分】</p>
	全体	<p>5. グループで話題になったことを紹介する。【4分】</p>
2分	全体	<p>6. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には人の気持ちを動かす力があり、同じ言葉でも言われて嬉しい言葉と逆に言われたら悲しい気持ちになる言葉がある。 ・自分の気持ち(伝えたいこと)を伝えるための話し方、相手の気持ち(伝えたいこと)を理解しようとする聞き方をお互いに日ごろから意識していくことが大事である。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「言葉の力」をキーワードに講座を進めていきます。

・キーワードの提示

2. 印象に残った言葉

○みなさんが子どものころ言われた言葉で、印象に残っている言葉、言われて嬉しかった言葉や言われて悲しかった言葉にはどんな言葉がありますか。
(数名の人に発表してもらう)

・この活動に時間をかけすぎるとあとの活動に余裕がなくなるので、時間配分に気を付ける。

3. 言葉のチェック

(ワークシートの配付)

○これからみなさんに言葉のチェックをしてほしいと思います。

ワークシートに、いくつかの言葉が示されています。この言葉を1, 2, 3の3段階でチェックしてください。

「よく使っている」は「3」を、「時々使っている」は「2」を、そして「ほとんど使っていない」は「1」をつけてください。

また、空欄があります。そこには、みなさんが、日ごろよく使うような言葉を記入してください。自分のイメージでチェックされてください。

チェックが終わったら、「チェックして気付いたこと」や「自分が話すときに気を付けていること」を考えてください。

・チェックすることや考えを書くことに時間をかけすぎないように声をかける。

4. グループの中での紹介

○今、それぞれで考えられたことを、グループの中で紹介してください。まだ、書いている途中の方もいらっしゃるかもしれませんが、書かれた範囲で、思ったことなどを紹介してください。
時間は8分です。みなさんの意見が紹介できるようにしてください。

・グループの人の話を聞くうちに自分の考えがまとまってくるので、「話す」ことを優先させる。

5. 全体紹介

○まだ話している途中だと思いますが、グループで出された意見を紹介してください。
(時間があればグループの意見を多く紹介する)
○どうでしたか？いろいろな意見を聞いて参考になりましたか？

6. まとめ

○私たちが日ごろ使っている言葉には「力」があります。同じ言葉でも、嬉しい気持ちにしたり悲しい気持ちにしたりする力をもっています。みなさんは、自分はそういうつもりではなかったけど、相手が違うように感じてしまったという自分の伝えたい真意が相手に伝わらなかった経験はありませんか。
○相手を嬉しい気持ちにする言葉をたくさん使っていると、言葉を発する自分自身も嬉しい気持ちになれるようです。家庭の中でも、子どもや家族が嬉しい気持ちになる言葉をたくさん使いたいですね。
○自分の気持ち（伝えたいこと）を伝えるための話し方、相手の気持ち（伝えたいこと）を理解しようとする聞き方を、お互いにやっつけていこうとすることが大切です。

・まとめのときに、参加者の経験を紹介し、話と結びつけることもできる。

・「嬉しい気持ちになる言葉を●つ言ってみましょう。」と、参加者に考えさせてもいい。

【よく使う言葉は？～言葉の力について考えよう～】

ワークシート

◇下の表の言葉を、「よく使っている（と思う）」「時々使っている（と思う）」「ほとんど（全く）使っていない（と思う）」の3段階でチェックしてみましょう。

《チェック欄の記入のしかた》

- ・よく使っている（と思う）→3
- ・時々使っている（と思う）→2
- ・ほとんど（全く）使っていない（と思う）→1

※空欄には、自分で考えた言葉を書き込みましょう。

言葉	チェック欄	言葉	チェック欄	言葉	チェック欄
ありがとう		おそい		まだできないの？	
何やってるの？		おめでとう		やめなさい ～するな	
すごいね		よかったね		出て行って	
がんばれ がんばって		～してあげない		〇〇ちゃんは、 ～できたよ	
～しなさい		わからないの？		どうしてできないの？	
できないの？		早く～して		また～したの？	
えらい		うるさい 静かにして		何度言ったらわかるの？	
大丈夫？		がんばったね		よくやったね	
上手だね		できて当たり前よ			
ステキ		～したらダメ			

☆気付いたことを話してみましょう。

☆話すときに気を付けていること

【プログラム16:これって「反抗期」？

～子どもも成長、わたしも成長～】

☆ねらい：子どもの気持ちに寄り添った行動を考える活動を通して、親と子どもの関係を見直し、これからの子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	親のかかわり方
時 間	25分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	ワークシート
主な活動	①「反抗期」のとらえ方を考える。 ②「こんなときどうする？」（ワークシート）を通して、自分の考えを言ったり、他の人の意見を聞いたりする。
気を付けること	○事例の中で、「子どもを怒る、叱る」という意見に集中しそうになった場合は、他の意見も引き出すように気を付ける。 ○「正解」を出すのではなく、多様な考えを聞くことを通して、これからの子育てに役立てていこうとする気持ちを大切にできるように声をかける。
備考	○座談会形式で行うときは、シートへの記入をしやすくするため、バインダーや下敷きなどを用意するとよい。 ○まとめでは、先輩保護者の体験談でまとめてもよい。
スタート編との関連	プログラム③：子どもの気持ちと親のかかわり

【プログラム16：これって「反抗期」？

～子どもも成長、わたしも成長～

時間	形態	講座の流れ
3分	全体	<p>1. ねらいと「反抗期」のとらえ方を確認する。【3分】</p> <p>[キーワード] ○親のかかわり方</p>
20分	個人 グル ープ	<p>2. 「こんなときどうする？」(ワークシート) をする。【15分】</p> <p>①事例をもとに自分の行動を考え、グループの中で考えを紹介する。 〈6分〉</p> <p>②グループで話し合う。〈9分〉</p>
	全体	<p>・「もし自分が子どもだったら、どうしてほしいか」考える。 (参加者の反応を見ながら、「自分が反抗期だったとき、親にどうしてほしかったか、どうだったか」を問いかけてもよい。)</p> <p>・反抗期の子どもに、親としてどのような対応が必要か、グループで考える。</p> <p>・自分のこれまでの経験から思うことなどを紹介する。</p>
2分	全体	<p>3. グループで話したことを紹介する。【5分】</p> <p>4. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p>・子どもの成長とともに、「自分のことは自分で決めたい」という精神的自立の時期が来る。</p> <p>・親は、つい口うるさくなったり心配しすぎたりしがちである。</p> <p>・親も子ども成長していこうとする気持ちをもつことが大事である。</p>

1. ねらいの
確認

- 今日は、「親のかかわり方」というキーワードを
もとに、講座を進めていきたいと思います。
- みなさんは「反抗期」というと、何歳ぐらいでど
ういう感じをイメージしますか。
(参加者の様子を見る)
「反抗期」は幼児期にも大人になってからもある
そうです。一般的に小学校高学年ぐらいから中高
生時期あたりの子どもで、大人の言うことに反発
するような状況をイメージする人たちが多いよう
です。
- 今日の講座では、大人の言うことに反発したり、
あまり話さなくなったりする時期の子どもたちを
イメージして考えたいと思います。

・キーワード
の提示。

2. 「こんなと
きどうする？」
をする

①自分だっ
たら・・・

- ワークシートに「こんなときどうする？」という
事例があります。(事例を読み上げる)
- このような時、あなただったらどうすると思いま
すか？チェック欄にチェックしてください。
(しばらく待つ)
- 「自分だったらどうするか」をグループで意見交
換してください。
(しばらく待つ)
どんな意見が多かったですか。
(いくつかのグループの意見を紹介する)

・「子どもを怒
る、叱る」に
意見が集中し
そうになった
ら、叱った後
の対応なども
取り上げるよ
うに気を付け
る。

②グループ協議

○いろいろな対応が考えられましたね。続けて次の2つのことについて自分の考えをグループで出してほしいと思います。

1つ目は、「あなたがこの子どもだったら、親にどんなことを望むか」ということです。

2つ目は、「反抗期の子どもには、どんな対応が必要だと思うか」ということです。

このことについて、グループで話し合ってください。

ワークシートには、話すためのメモを書いてもいいですし、書かずに話してもいいです。

・自分が反抗期だった時どうだったか等も話せる範囲で話してよいことを知らせる。

③全体紹介

○まだ話している途中だと思いますが、グループで出された意見を紹介してください。

(時間があれば全グループの意見を紹介する)

○どうでしたか？いろいろな意見を聞いて参考になりましたか？

・話題になったことの中から紹介する。

3. まとめ

○子どもの成長とともに、「自分のことは自分で決めたい」という精神的自立の時期が来ます。しかし、親は、つい口うるさくなったり、心配しすぎたりしがちです。親も子も成長していこうとする気持ちをもつことが大事です。

○子育てには、こうしなければいけないという正解はないと思います。今日の講座で聞くことができたいろいろな意見を、自分の子育てのヒントとしてもらえたらいいなと思います。

・反抗期を終えた子どもがいる進行役の場合、自分の体験談や先輩保護者の体験談を聞く活動もよい。

これって「反抗期」？～子どもも成長、わたしも成長～

ワークシート

☆「こんなときどうする？」

※次のような例があります。

最近、うちの子は、自分から学校のことなど話さなくなりました。「楽しかった？」と聞いても「うん」、「どうだった？」と聞いても「うん」の返事です。以前は、いろいろ話してくれていたのに・・・。

ある日、子どもが学校から帰ってきた時、「今日、けんかした。」と言いました。「何があったの？」と聞いても、「もう終わった。いい。」と言ったまま、あとは何も話してくれません。



◆あなたなら、このようなときどうしますか？

下記の項目にチェックしてみましょう。

※（1：多分する 2：多分、場合によってはするだろう 3：多分しない）

項 目	チェック欄
◇子どもに事情（状況）を聞きなおす。	
◇担任の先生に事情を聞く。（学校や担任の先生の自宅に電話する）	
◇子どもを怒る、叱る。 （けんかしたことに対して、話さないことに対して）	
◇何も言わない、聞かない。そっとする。	
◇その他 （ ）	

考えや思いを出し合いましょう！

◆あなたが、この子どもだったら、親にはどんなことを望みますか？

◆「反抗期」の子どもには、どのようなかわり方が必要だと思いますか？

【プログラム17:

子育てで広がる夢・喜び

～子育ての歩みとこれから～】

☆ねらい：子育てマインド曲線を活用し、これからの子育てを想像する活動を通して、親の役割を再認識し、子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	歩みと見通し
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	個人からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「子育てマインド曲線」を書き、子育てに対する気持ちの高まりや落ち込みを想像する。 ②「どんな子どもに成長してほしいか」「どんな親になりたいか、親としてどんなことをやっていきたいか」を考え、話し合う。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○「マインド曲線」で、子育てに関しての感情など、書ける範囲で書くことを知らせる。プライベートな事項が多く含まれる可能性があるため、十分配慮する。
備考	○「マインド曲線」の「これまで」の部分は、実態に合わせた取り入れ方をする。 ○「マインド曲線」の書き方を説明する時には、進行役のマインド曲線を用いてもよい。進行役が先に自分のことを話すと参加者も話しやすい。 ○2人以上の子どもがいる場合、学級懇談会であれば当該学級の子ども、PTA研修会であれば1人の子どもに絞って考えるように話す。
スタート編との関連	なし

【プログラム17：子育てで広がる夢・喜び

～子育ての歩みとこれから～

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【2分】</p> <p>[キーワード] ○歩みと見通し</p>
25分	個人 グループ 全体 全体	<p>2. 「子育てマインド曲線」を書いて考える。【16分】</p> <p>①「マインド曲線（これからの部分）」を書く。〈5分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲線と「気持ちが高まったときや落ち込んだとき」のことを想像したりしながら書く。 <p>②「どんな子どもに成長してほしいか」「どんな親になりたいか、どんなことをやっていきたいか」を書く。〈2分〉</p> <p>③①で想像したことや②で記入したことを、グループの人たちに紹介する。〈9分〉</p> <p>3. グループの意見を紹介しあう。【6分】</p> <p>4. 「マインド曲線（これまでの部分）」の書き方や考え方を知る。【3分】</p> <p>※講座の時間などにより4の活動を取り扱わない場合は、時間配分を変更する。</p>
3分	全体	<p>5. まとめ（自分の経験を交えながらまとめると効果的である。）【3分】</p> <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育ては楽しいこと、嬉しいこと、心配すること、困ったことなどいろいろある。 ・子どもの成長に合わせて心配事も多くなるが、喜びもたくさんあるのではないか。 ・親も、子どもと同じで迷いながら親として成長していく。 ・周りの人に話すことで、自信をもち子育てを楽しもう。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいを聞く

○今日は、「歩みと見通し」をキーワードに、講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「子育てマインド曲線」を書いて考える

○これまでの子育てで、嬉しかったことはどんなことですか？（数名に聞く）
ありがとうございました。みなさん、これまで子育てをしてきて、いろいろな思いがあったと思います。今日は、「これからの10年間」の子育てについて考えてみましょう。
（ワークシートを配付）

・子育てに対する気持ちの移り変わりはだれでもあることを知らせ、安心感を持たせる。

①マインド曲線を書く

○今は、シートの中央の「現在」のところですか。これから10年間の子育てを想像して、どんな気持ちの移り変わりがあると思うか、曲線で表してみてください。
（しばらく待つ）

・進行役が、拡大した用紙を用い、実際に書きながら説明すると、参加者はイメージをとらえやすい。

○曲線が上がったり下がったりしていると思います。子育てに関する心情が高まったときに曲線が上がり、子育てに関する心情が下がったときに曲線も下がります。そして、『●●がある』と思うので曲線が上がると思うや『▼▼がある』と思うので下がると思うと、想像した心情を左右する出来事を書いてみましょう。

・書いた方が話しやすい場合は、ワークシートにメモしてもよいことを知らせる。また、書かずに話したほうがいいのかも、どちらでもいいことを知らせる。

②子どもの成長、自分のこれからについて考える

○ワークシートの下部分になりますが、2つのことを考えてください。「どんな子どもに成長してほしいか」と「どんな親になりたいか、今後、親として、どんなことをやっていきたいか」です。

③グループの中で出し合う

○今考えたことや子育て曲線で想像したことなどをグループで出し合ってください。時間は7分間です。考えられたことなどできるだけ多く、グループの中で紹介してください。

3. 意見の紹介

○それでは、グループで出た意見や話題を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

○他のグループの意見を聞いてどうでしたか。

・できるだけ多くのグループの意見が紹介できるように配慮する。

4. マインド曲線「これまで」について

○今日は、「マインド曲線」の「これから」の部分を考えていただきました。この講座では「これまで」の部分ではできませんでしたが、これまでの子育てを振り返り、自分の子育てに対する心情がどのような移り変わりをしてきたか見つめてください。「これまでの」部分の曲線の書き方は、今日やった方法と同じです。子育てを振り返るいい機会です。ぜひご家庭で記入してみてください。

・進行役が書き方の見本として実際に書くとわかりやすい。

5. まとめ

○今日、みなさんからいろいろな意見を聞くことができました。子育てをしていると、楽しいと思うこと、嬉しいと思うこと、心配することや困ったと思うことなど、いろいろな気持ちになります。子どもの成長とともに、心配事も多くなると思いますが、喜びもたくさんあるのではないのでしょうか。

○親も子どもと同じで、迷いながら親と成長していくものと思います。今後もまずは、周りの人に話すことで、子育てに対する見通しや自信をもち、子育てを楽しんでいただきたいと思います。

・グループの意見の紹介で、まとめにつながる意見があった場合は、そのこととあわせてまとめの話をするとう参加者によりわかりやすい。

「子育てマインド曲線」ワーク

☆これまでの()年		☆これからの(10)年	
↑ 高まり		↑ 高まり	
↑ 子育てに関する心情		↑ 子育てに関する心情	
↓ 落ち込み		↓ 落ち込み	
		★ 現在	

☆どんな子どもに成長してほしいか？

◇どんな親になりたいか？

◆今後、親として、どんなことをやっていきたいか？

【プログラム18:

わが家で大事にしたいこと】

☆ねらい：「子どもにとって大事と思うもの」のランキングをする活動を通して、毎日の生活を振り返り、家庭で大切にしていることや今後大切にしたいことを再確認し、子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	わが家の1か条
時 間	40分
人 数	何人でもできる。
活動形態	個人からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「あなたは子どもに何と言う？」の活動を通して、日ごろの様子を振り返る。 ②「子どもにとって大事と（私が、わが家で、）思うもの」をランキングを通して考える。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○ランキングする項目は参考例なので、この項目が大事にしたいことの全てではないことを話す。また、参加者の実態に応じて項目を変更してもよい。 ○ランキングでは、「これがよい」「これは悪い」とならないように、グループの話し合いの仕方を指示する。
備考	○ランキングのところでは、「それぞれの家庭で大事にしていることを3つずつ紹介してもらおう」という方法もできる。（講座の時間や実態等にあわせて活動をアレンジする。） ○まとめでは、「くまもと家庭教育10か条」や各市町村で作成している「家庭教育10か条」等を用いると効果的である。
スタート編との関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム18：わが家で大事にしたいこと】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【2分】</p> <p>[キーワード] ○わが家の1か条</p>
35分	グループ	<p>2. 「あなたは子どもに何と言う？」(ワークシート)を通して考える。【10分】</p> <p>①自分だったら何と言うか考え、グループの中で紹介する。</p>
	個人	<p>3. 「子どもにとって大事と(私が、わが家で、)思うもの」(ワークシート)を通して考える。【17分】</p> <p>①例題の項目の中から大事だと思うこと3つ選んで図に表す。(5分)</p>
	グループ	<p>②なぜこういう並びにしたか、なぜこれを選んだかをグループの中で出し合う。(12分)</p>
	全体	<p>4. グループで話題になったことを紹介する。【8分】</p>
3分	全体	<p>5. まとめ【3分】</p> <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭で大事にしていることには違いがある。 ・子どもが、自分の家庭に「安心感」をもつことが大切である。 ・「衣・食・住」の安らぎは、家庭生活の基盤となると言われている。 <p>○くまもと家庭教育10か条や市町村で作成してある家庭教育10か条等を紹介する。</p>

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「わが家の1か条」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「あなたは子どもに何と
言う」をする

(ワークシートを配付)

○ワークシートの「あなたは子どもに何と言う？」をみてください。

ここに「ある日の朝のできごと」のエピソードがあります。(エピソードを読む)

このような時、何と言いますか。グループの中で子どもに言うように言ってみましょう。

(グループでの出し合い)

○ここで、何人かの方に代表で紹介していただきたいと思います。

(2～3名の人に言ってもらう)

ありがとうございました。

・これまでに同じような経験をされた参加者がいた場合は、その時のことを紹介してもらおう。

3. ランキングを通して考える

① 3つ選び、
図に表す

○「子どもにとって大事と(私が、わが家で)思うもの」の表をみてください。

(Aから順に読みあげる。)

このAからJ以外に子どもにとって大事と思うものがある場合は、Kに書いてください。

AからKまでの中から、特に、「子どもにとって大事と思うもの」を3つ選んでください。そして、1番から順になるように図に表してください。ワークシートに例が示してあります。AからE以外の表し方でもいいです。

まず、個人で考えて図に表してください。その後、グループで紹介し合いたいと思います。

(時間をとる)

・「子どもにとって大事と思うもの」は、ワークシートに記してあるもの以外にもあることを話す。

②グループでの紹介

○今、個人で考えられたことを、グループの中で紹介してください。なぜそれを選んだか、なぜそういう並びにしたか等を話してください。

まだ、ワークシートに記入している途中の方もいらっしゃるかもしれませんが、お互いの話を聞いていくうちに自分の考えがまとまることもあります。迷ったことなどもグループの中で話してください。

・記入が終わっていても考えていることを話したり聞いたりする方に時間を多くとるように話す。

3. 全体での紹介

○それでは、グループで出た意見や話題を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

・できるだけ多くのグループの意見を紹介できるようにする。

4. まとめ

○今、グループからの発表にもありましたが、それぞれの家庭で大事にしていることには違いがあります。家庭で大事にしていることや親子、家族のコミュニケーションを通して、子どもが自分の家庭に「安心感」を持つことが大切です。「衣、食、住」の安らぎは、家庭生活の基盤とも言われています。

・進行役自身が、わが家で大事にしていることを話してもよい。

【わが家で大事にしたいこと】

ワークシート

1, 「あなたは子どもに何と言う？」

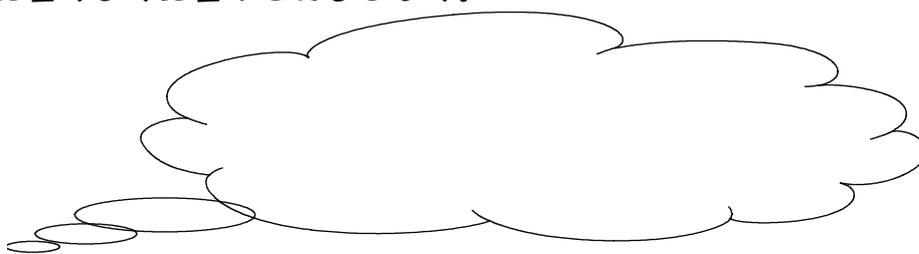
Q: 子どもに話すように言ってみましょう。

《ある日の朝のできごと》

○あなたの子どもは、小学4年生。体育が好きで、なかでも水泳が大好きです。昨夜は、「体がきつい。」と言い、夕食もあまり食べないで早く寝ました。熱はないようですが、今もまだ食欲はいつものようにはありません。子どもは、間近にひかえている水泳大会のリレーの選手決めのことを心配しているようです。子どもは、「大丈夫。水泳するよ。絶対したい。」と言っています。この時、あなたは・・・？



子どもに言うように言ってみましょう。



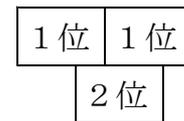
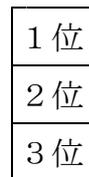
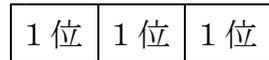
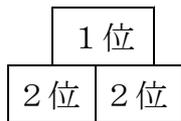
2, 「子どもにとって大事と（私が、わが家で、）思うもの」ランキング

記号	キーワード	内 容
A	リズム	早寝早起き朝ごはん、きちんとした生活リズムが身に付くこと
B	友達	友達と仲良くなること
C	運動	運動ができること、得意なスポーツがあること
D	経験	いろいろなことをたくさん経験すること
E	勉強	勉強ができること、成績がよいこと
F	主張	自分の考えや思ったことがはっきり言えること
G	命	自分の命、動物の命、すべての命を大切にすること
H	聞く	親や先生、家族（大人）の話をよく聞くこと
I	判断	善悪の判断ができ、行動できること
J	心	相手を思う気持ち（優しさ、感謝の心）をもつこと
K		その他（ ）

- ◆A～Kを、あなた（あなたの家）が「子どもにとって大事と思う」順に3つ選び、キーワードを図にしてみましょう。
「その他」がある場合は、それを加えてください。

《図の表し方》・・・下図のように3つを選び、図にする。（キーワードを書く）

ア：ピラミッド型 イ：よこ型 ウ：たて型 エ：逆三角型



★ア～エ以外の表し方がある場合はその表し方でもいい。

例：アのピラミッド型で表すとき



例：ウのたて型で表すとき



【プログラム19:ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！】

☆ねらい：家庭で「食」に関して大事にしていることを再確認する活動を通して、食生活を見直し、家庭における食育の大切さに関する意識を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	食生活
時 間	40分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「食」に関する思い出や経験を出し合う。 ②エピソードをもとに考え、話し合う。 ③簡単レシピや食マナーの紹介をする。 ④印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○「家庭ではだれもが食事を作る」ということを十分配慮する。 ○「食」に関して、さまざまな家庭の実態があることを十分考慮する。
備考	○簡単メニューは、インターネット等で紹介されているレシピ集などを活用してもよい。 ○「とっても簡単！！やってみて、やってみて」の活動は、参加者の実践意欲を高めることが大事なので、意見が少ない場合は、進行役がレシピや食マナーを紹介する等、事前の準備をしておく。 ○「はじめよう！早寝早起き朝ごはん」（熊本県教育委員会）のDVDや「早寝早起き朝ごはんガイド」（「早寝早起き朝ごはん」全国協議会）等を活用した展開もできる。
スタート編との 関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム19：ニコニコ、パクパク。わが家の食事！】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【2分】</p> <p>[キーワード] ○食生活</p>
36分	全体	<p>2. 自分の「食」に関する思いや経験を出し合う。【6分】</p> <p>・好きなメニュー ・苦手な食べ物 ・食に関する思い出 等</p>
	グループ	<p>3. 「ある日のエピソード」(ワークシート)をもとに話し合う。【15分】</p> <p>①グループで、例題をもとに考え、理由も一緒に出し合う。〈10分〉</p> <p>「食生活で大事にしていることやこれから大事にしていきたいこと(わが家の食育1か条)」を紹介する。</p>
	全体	<p>②グループで話題になったことを紹介する。〈5分〉</p>
	グループ	<p>4. 「とっても簡単！！やってみて、やってみて。」(ワークシート)を使って、話したり聞いたりする。【15分】</p> <p>①グループの中で、話したり聞いたりする。</p> <p>・意見が少ない場合は進行役がレシピや食マナーを紹介する。</p>
	全体	<p>②グループで出されたことを紹介する。</p>
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p>・食事は生きていくために欠かせないものである。また、栄養のバランスを考えることや家族の団らんとなるなど、重要な役割がある。</p> <p>・参加者の意見を聞いて、取り入れられることはぜひ今日からやってみてほしい。</p>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「食生活」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「食」に関する思い出

○初めに、自分の好きなメニューや苦手な食べ物、食に関する思い出等をグループで紹介してください。時間は6分です。グループのみんなが話せるようにいろいろな食の話題を端的に話してください。

・1人が長く話すと時間が不足するので気を付けさせる。

3. 話し合う

① エピソードをもとに考える

(ワークシートを配付)

○ワークシートを見てください。そこに「ある日のエピソード」が書いてあります。ここでは、食事を作るのが「お母さん」になっていますが、食事を作るのは家庭によって違い、お父さんが作るころもあれば、夕食はおばあちゃんが作るころもあると思います。ここでは1つの例として考えてください。

このエピソードをもとに、ABCのどのタイプの考えに近いか、また、「家庭で、食に関して大事にしていること」などを紹介してください。

(様子を観察する)

・食事を作る人は家庭によって様々であることを話す。
・ワークシートは参加者の状況に合わせたものに変更するとよい。

② 全体紹介

○ABCのどのタイプが多かったか、また、グループでどんなことが話題になったかなどを紹介してください。

(いくつかのグループを紹介する)

・ABCの中の少数派の意見も取り上げ、その考えなどを紹介する。

4. やってみて ・ ・ の活動

① グループでの 紹介

○ワークシートの裏面を見てください。みなさんのこれまでの経験で、とても簡単に作れるメニューを紹介してほしいと思います。朝食でも、昼食でもいいですし、子どもと一緒に作られるものでもいいです。

また、メニューの紹介に戸惑いを感じられる場合は、食に関するマナーを紹介してください。

(グループ内での紹介)

※参加者の状況によって、グループ内での紹介ではなく、進行役が全体に簡単レシピを紹介したり、参加者の代表の人にレシピやマナーを紹介してもらったりしてもよい。弾力的にする。

・食マナーでは、箸の持ち方を取り上げ、正しい箸の持ち方を話題としてもよい。

・早寝早起き朝ごはんガイドブックを参考にしてもよい。

(朝ごはんを習慣づけるための3ステップ等、参考にできる)

② 全体紹介

○それぞれのグループで紹介し合ったメニューやマナーの中から1つ、全体で紹介してほしいと思います。

(いくつかのグループに発表してもらう)

・子どもの自立に向けて、食に関することで、子ども自身がやっていくことも視野に入れておくといいことも触れる。

5. まとめ

○食事は生きていくために欠かせないものです。

また、食事は、栄養のバランスを考えるばかりでなく食事を通して会話をしたり、食事の時間にコミュニケーションをとったりするなどの重要な役割を果たしています。

○それぞれの家庭で、食に関する考えや状況など、様々だと思いますが、今日話題になったことの中から、「わが家」でできそうなことを1つでも始めてみませんか。

【ニコニコ、パクパク。わが家の食事！】ワークシート

《ある日のエピソード》

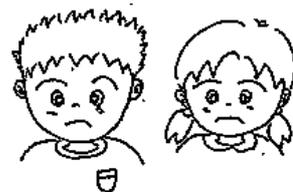
○夕食の時間になりました。お母さんが、



・今日のおかずはお魚の煮付けと生野菜のサラダ、具たくさんみそ汁よ。栄養満点、おいしいわよ。

と、ニコニコしながら話しました。
それを聞いた子どもたちは、とても不満な顔で、

・朝から「カレーにして」って言ったでしょ。そしたら、お母さん「そうね」って。何でカレーにしなかったの？ぼくカレーがいい……



・確かに、朝、子どもが学校に行く前はそんな話をしていました。
しかし、カレーはつい最近だったし、新鮮な魚がお買い得だったし、栄養のバランスを考えて、メニューを変更したのです。

◇このときどうする？

タイプ A

〔考え〕

《わが家の食育1か条》



・ごめん。カレーにしてって聞いてたけどお母さんは、栄養とかいろいろ考えて作ったのよ。文句を言わないで、さっさと食べてちょうだい。残さないでよ。

☆食事は、しつけ。栄養メニューや食べ方など親のしつけのもと行うのが1番！

タイプ B



・困ったわ。そう言っていたわね。あっ！！インスタントのカレーは買ってあるから、すぐ作ってあげられるわ。ちょっと待ってて。

☆「食事は楽しく」が何より。好きなものを楽しく食べる、そうすることが1番！

タイプ C



・今日は新鮮なお魚がお買い得だったの。お魚は栄養豊富で、脳の働きを活発にしたり、カルシウムも豊富なのよ。お野菜だってそうよ。カレーはまた今度ね。

☆食事は親子のきずな。メニューも食べ方もコミュニケーションを大事にすることが1番！

◇あなたは、A,B,Cのどのタイプの考えに近いですか？

◇あなたの家庭で、「食に関して大事にしていること」や「これから大事にしたいこと」を紹介しましょう！

タイプ	わが家の食育1か条



とっても簡単！！やってみて、やってみて。



☆朝食編 ☆昼食編 ☆子どもと一緒に作りたい編 ☆食マナー編

○どれか1つ選んで紹介してください。

**オススメ
朝食メニューレシピ**

**昼食にオススメの
メニューレシピ**

**子どもと一緒に作りたい
メニューレシピ**

わが家の食マナー

【プログラム20：伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを考えて～】

☆ねらい：自己主張と受容のバランスを考えた対応の仕方を経験する活動を通して、保護者同士、自分と家族など互いの関係をよりよくしようとする意欲をもつ。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	45分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「3つのタイプで考えてみよう」を通して考える。 ②「ケーススタディ：あなたなら？」を通して考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○伝えたいことを表現することが得意な参加者と苦手な参加者がいることを配慮する。 ○相手の人権を尊重した話し方とあわせて相手を尊重した聞き方（相手を見る、うなづく、あいづち等）も大事であることに気を付ける。
備考	○「3つのタイプで考えてみよう」では、「進行役対参加者」で役割演技を行うが、ペアで役割演技を取り入れることもできる。 ○「ケーススタディ：あなたなら？」と同じような経験があれば紹介する活動を入れることもできる。
スタート編との 関連	プログラム④：上手なほめ方・しかり方 ～伝え方のひと工夫～

【プログラム20：伝え方のひと工夫～みんなの気持ちを考えて～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
42分	<p>全体</p> <p>個人 グル ープ</p> <p>全体</p>	<p>2. 「3つのタイプで考えてみよう！」(ワークシート)を通して、相手と接するときの対応の仕方には、3つのタイプがあることを知る。【10分】</p> <p>○3つのタイプの感じ方の違いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進行役対参加者」で役割演技をする。 ・言われた時の感じ方を考える。 <p>3. 「ケーススタディ：あなたなら？」(ワークシート)を通して考える。【25分】</p> <p>①例題A、Bを通して、自分だったらどうするか考える。(5分)</p> <p>②考えたことを、グループの中で出し合う。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入はできる範囲でよいことを伝える。 <p>4. グループで出されたことや感想を紹介する。【7分】</p>
2分	全体	<p>5. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・対応の仕方は大きく3つのタイプに分けられる。 ・相手の人権を尊重し、自分の気持ちを適切に伝えることが大切である。 ・日ごろから、言葉の使い方、表現の仕方を意識することが大切である。 </div>

1. ねらいの確認

○今日は、「コミュニケーション」をキーワードに講座を進めていきたいと思えます。みなさんは、自分が伝えたいことは、きちんと相手に伝えていますか。また、相手が何かを伝えたときに、どんなことに気を付けて、伝えてきたことを受け入れようとしていますか。今日は、このことを一緒に考えていきましょう。

・キーワードの提示。

2. 3つのタイプで考えてみよう

○ワークシートを見てください。
 自分の考えや気持ちの伝え方、主張の仕方には大きく3つのタイプがあると言われています。
 「タイプあ」は・・・。
 「タイプい」は・・・。
 「タイプう」は・・・です。

・「タイプ」の説明部分を読む

私が「子どもA」の役をします。みなさんは「子どもB」になってください。「子どもA」「子どもB」の順にセリフを言います。
 「子どもBの②」のとき、どんな気持ちになるか、言い方のタイプが違うと言われた方はどんな気持ちかということを考えてください。

○それではやってみましょう。
 (シナリオにそって、進行役対参加者の役割演技をする)

○みなさんどうでしたか。感じたことを紹介してください。
 (数名の人に紹介してもらう)

○そうですね。「タイプあ、い、う」のように言い方が違うと受け手の感じ方に違いがありますね。みなさんは、どの伝え方が、お互いの気持ちがいいと思えますか。
 また、日ごろ、どの伝え方が多いでしょうか。これをきっかけに、考えてみてはどうでしょうか。

・参加者には「子どもB」のせりふを言う練習の時間をとってよい。

・役割演技をするときは、進行役も参加者も子どもになりきることが大事。

3. ケーススタ ディ：あなた なら？

○次に「ケーススタディ：あなたなら？」を通して考えてみましょう。

例題が2つあります。この2つの例題を個人で考え、その後、グループの中で考えたことを紹介してください。進行する人を決め、ある程度自分の考えがまとまったかなと思ったら声をかけて、グループでの話し合いを始めてください。何かわからないことがあるときは、尋ねてください。それでは、始めてください。

(グループを見て回り、ある程度時間が過ぎても話し合いが始まらないようであれば、書くことより話すことの方を優先させるように声をかける)

・目安の時間

①1人で考える：5分

②グループでの話し合い：20分

③全体への紹介：10分

4. 意見の紹介

○グループで話題になったことや例題Bでの「この家族にとって、お互いの気持ちを尊重する」方法を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

・例題Bでの

「お互いの気持ちを尊重する方法」は、全部のグループに紹介してもらってもよい。グループごとに用紙等を書き、それを全体に紹介してもよい。

5. まとめ

○他のグループの意見を聞いてどうでしたか。

自分の考えがあっても伝えなければ気持ちや考えは相手に伝わりません。また、自分の気持ちを伝えるときには、相手のこと、相手の人権を尊重することが大切です。

○今日、考えたからすぐ実行できるというものではありません。日ごろから、言葉の使い方、表現の仕方を意識しておくことが大切です。

【3つのタイプで考えてみよう！】

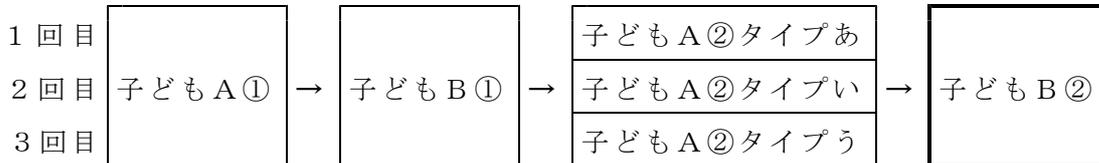
【タイプあ】：相手の気持ちより自分の考えや思いを主張する、攻撃的な対応

【タイプい】：相手のことを気にして、自分の考えや思いを伝えない、受け身的な対応

【タイプう】：相手のことも考え、同時に自分の考えや思いも伝える、主体的な対応

◆子どもB②の時、どんな気持ちになるでしょう。

3つのタイプで言われた時の感じ方の違いを考えてみましょう。



・子どもA① 進行役 やったー。読みたかった本がやっと借りられる。
嬉しいな。早く帰って読みたいな。
(子どもAの気持ちや状況を知らない子どもBが、偶然子どもAに会った)

・子どもB① 参加者 あっ。その本。
読みたかったんだ。貸して！貸して！

・子どもA② (タイプあ) 進行役 ・何で？やっと今日借りたばかりなのに。まだ全然読んでないんだよ。

(タイプい) 進行役 ・(心の中で、「やっと借りたのに……。まだ全然読んでないのに……。」) う～ん……。いいよ……

(タイプう) 進行役 ・私もようやく借りられたんだ。今、借りたばかりで全然読んでないから、ちょっと待ってて。
読んだらすぐ知らせるから。

・子どもB② ? ? ? ?

《ケーススタディ：あなたなら？》

例題：A

○ 子どもが仲良しの友達を家に連れてきました。今は、楽しくカード遊びをしています。しかし、昨日、姉とカード遊びをしているときに、「好きなカード貸したんだ。『返して』って言うてるけど、なかなか返してくれない。そのカード、手に入れにくいし、強いし、気に入っているんだけど・・・。どうしよう？」と、話しているのが聞こえてきました。

気にはなったのですが、そのままにしていました。今、子どもとその仲良しの友達は、楽しそうにカードゲームをしています。

このとき、あなたは親としてどうしますか？

①黙ってこのままの状態を続ける（気付かないふりをする）

②自分の子どもを呼んで、言う

↓どんな言い方で、何と言う？

③子どもの友達に言う

↓どんな言い方で、何と言う？

④その他

↓具体的に

※わたしの考えに1番近いのは、（ ）です。（上記①～④を記入）

なぜそうするのかというと、

だからです。

例題B

- 子どもが、「おとうさん、今度の土曜日、時間ある？」と聞いてきました。「おとうさんは仕事だよ。」と答え、そのあと「どうした？」と聞き返しました。「転校したリカちゃんから『遊びにおいでよ。』って電話があったの。だから乗せて行ってほしかったんだ。」と言いました。「おかあさんは？」と聞くと、「おにいちゃんの部活の試合に行くんだって」と言いました。「おにいちゃんの試合にはこの前も行ったのに・・・」と、小さな声でつぶやきました。
- さて、このときあなたは親としてどうしますか？

○あなたが「おとうさん」の立場だったら、何と言いますか？



○あなたが「おかあさん」の立場だったら、何と言いますか？



☆この家族にとって、お互いの気持ちを尊重するにはどんな方法があるでしょう。

MEMO

【プログラム21:だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、話してみよう～】

☆ねらい：互いに悩みに答える活動を通して、子育てに対する自分の考えや思いを整理し、子育てに対して前向きな気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	悩みの共有
時 間	4 5 分
人 数	何人でもできる。(ただし、少なくとも9～12人は必要)
活動形態	グループ (1 グループは4名がよい、3名でも可)
準備物	○悩みリスト (人数分) ○ストップウォッチ ○机上札 (A B C D) →それぞれグループ数
主な活動	①「悩みリスト」をもとに、相談者になったりアドバイザーになったりする。 ②アドバイスを受けたことをもとに話し合う。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○「悩みリスト」は、事前にアンケートを行うなど実態に合ったものを用いるとより効果的である。しかし、それが個人を特定できる悩みにならないようにする。
備考	○話の聞き方については、「スタート編」プログラムとの関連を図るとよい。
スタート編との関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ プログラム⑥：上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～

【プログラム21：だれにだって悩みはある
～一人で悩まず、話してみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○悩みの共有
42分	全体	2. 「悩みリスト」をもとに相談者になったりアドバイザーになったりする。 【25分】 (1) 方法を知る。〈3分〉 ①進行役が相談者Aを紹介する。 ②Aの相談に対して、B, C, Dは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ③進行役が相談者Bを紹介する。 ④Bの相談に対して、C, D, Aは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ⑤このように、C, DもA, Bと同じように行う。
	全体	(2) 聞くときの配慮事項を確認する。〈2分〉 ・相手を見てうなずきながら聞くなど、聞き方を工夫する。
	グループ	(3) グループ内でやってみる。〈20分〉
		3. グループ替えを行う。(同じ机上札の人で集まる。)【1分】
		4. アドバイスされたことを紹介しあう。【10分】
	全体	5. グループの代表が、特に印象に残った意見を紹介する。【6分】
2分	全体	6. まとめ【2分】 [ポイント] ・親は、子どもについていろいろな悩みや心配事があり、悩みをもっているのは決して自分だけではない。 ・だれかに相談すると気持ちが軽くなり、解決に向かうヒントが見つかるかもしれない。まずは、一人で悩まず、「話そう」「気持ちを伝えよう」ということが第一歩である。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの確認

○今日は、「悩みの共有」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 活動する

(1) 方法を知る

(机上札と悩みリストの配付)

○まず、グループの中で、だれが「相談者A」の役になるか、だれが「相談者B」の役になるか・・・(C、Dも)を決めます。

○次に、進め方を説明します。進行役が相談者を紹介します。

Aの役の人は、悩みリストに書かれているAの悩みをグループの人に相談してください。相談を受けたB、C、Dの役の人は、Aさんの悩みに対して感じたことや解決策など、1人1分程度話してください。

始めはBさんからです。私が「交代です」と言ったら、Cさんが話します。最後にDさんです。

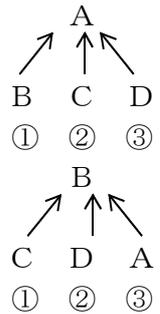
そこまでいったら、次はBさんが悩みを相談します。その悩みに対して、Cさん、Dさん、Aさんがアドバイスします。これを繰り返します。

全員が終わったら、Aさんグループ、Bさんグループ・・・とグループ替えをし、どんなことをアドバイスしてもらったかを紹介します。

どうですか。やり方は、わかりましたか。

私(進行役)が時間を計り、進行していきますので、各グループともあわせてください。

・方法を図に表して示すとわかりやすい。



(2) 聞き方の確認

○ここで、聞くときのことを確認したいと思います。今、説明したように、「悩み」に対してアドバイスするという活動を交代しながらやっていきます。相手の話を聞くときに、大事なことは何だと思えますか。

(しばらく待つ)

そうですね。

話し手を見る、うなずく、あいづちをうつ等、話し手が安心できる聞き方があります。ここでも、そのことを意識してほしいと思います。

・聞くときの留意点を提示すると、参加者は意識しやすい。

(3) 活動する

○それでは、悩みリストを見てください。自分の役のところを読み、その役になってください。そして、自分なりの考えをもってください。また、自分の役以外のところで、何とアドバイスするか考えてください。後で、実際やりながら考えてもいいです。

(しばらく待つ)

・アドバイスする時、だれかの批判にならないようにすることを確認する。

- それではやってみましょう。
 - 相談者Aさん、どんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Aさん役が話す)
 - 相談者Aさんに対してBさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次にCさん、アドバイスしてください。(1分計る)
最後にDさん、アドバイスしてください。(1分計る)
 - Aさんは、みなさんにお礼の言葉をお願いします。
 - 相談者Bさん、あなたにはどんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Bさん役が話す)
 - 相談者Bさんに対してCさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次に、Dさん、アドバイスしてください。(1分計る)
最後にAさん、アドバイスしてください。(1分計る)
- ※同じように相談者Cさん、相談者Dさんも進める。**

・アドバイスする時間は1分間とするが、短くなくてもよいことを伝え、安心感をもたせる。

3. グループ替え

- 今からグループ替えをします。
Aさん役の人は◆◆に、Bさん役の人は★★に、Cさん役の人は・・・、Dさん役の人は・・・に集まってください。(机上札を持って)
(移動)

・机上札をもって移動すると、参加者が集まりやすい。

4. グループの話し合い

- 前のグループの時、自分の相談に対して、どんなアドバイスもらったかを紹介してください。また、それぞれの話を聞いて感じたことや思った事など話し合ってください。
(しばらく待つ)

・特に印象に残ったことなどを紹介してもよい。

5. 意見の紹介

- グループの意見の紹介にうつります。
グループの代表の人は、特に印象に残ったアドバイスやグループで話題になったことなどを、他のグループの人たちに紹介してください。
(A~Dグループの代表が1人ずつ紹介する)

・それぞれの発表の前に、もう一度どんな相談だったか、悩みリストを進行役が読むと、発表とつながりやすく効果的である。

6. まとめ

- 他のグループの意見を聞いてどうでしたか。
同じ悩みに対してもいろいろな解決の方法があることが今日の講座で感じられたと思います。
- 悩みや心配事はだれにでもあり、決して自分だけではありません。だれかに相談すると、気持ちが軽くなり、解決に向かうヒントが見つかるかもしれません。一人で悩まず、「話そう」「気持ちを伝えよう」と思うことが第一歩です。

【だれにだって悩みはある～一人で悩まず、話してみよう～】

◇悩みリスト

(※実際使うときは、学校・学級等の実態に合わせた悩み等に変更するとよい)

《相談者A》40代・男（小5 男）

○息子の友だちの間でゲームがとても流行っている。ゲームができないと仲間に入れてもらえないらしく、「買ってほしい」と言ってきた。ゲームは、家では「購入しない」と言ってきたが、子どもの友達関係を考えるとどうしたらいいだろうかと悩んでいる。

《相談者B》40代・女（小4 女）

○中高生の兄たちと生活リズムが同じになり、夜、寝るのが遅くなっている。一人だけでは寝ることができず、自分も子どもと一緒にの時間には寝られず、どうしたらいいだろうかと悩んでいる。

《相談者C》30代・女（小4 男）

○祖父母の対応に悩んでいる。息子は、おやつを食べ過ぎと好き嫌いに原因があり、肥満傾向にある。バランスのとれた食生活をさせたいが、仕事がいそがしく自分に余裕がないため、食事等も祖父母に任せることが多い。また、祖母が勝手に子どもの持ち物を片付けてしまうこともある。親としては、子ども自身に片付けさせたいと思いほとんど手を出さないが、いつもあるところがないことがあるので子どもが戸惑うことがある。祖父母にはお世話になっているので、どのようにしたらいいか悩んでいる。

《相談者D》40代・男（小6 女）

○小6の娘の口調がとても気になる。最近になってとても冷めた言い方をするようになった。注意してもその場でから返事をし上の空という感じがする。母親が言うことに対しても同じで、時には口答えをする。成長過程の1つの反応だと思うが、どのような対応をすればいいのか悩んでいる。

MEMO

【プログラム22:

地域の子どもは地域みんなで育てよう

～ステキな「ひと・もの・こと」～】

☆ねらい：地域でかかわりのある人、大切なものや行事などを見つめる活動を通して、保護者自身が地域を知り、人を含めた地域のよさに気づき、地域の力を借りて子育てをする意識をもつ。

《プログラムの概要》

キーワードの例	地域のよさ、ひと・もの・こと
時 間	45分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート（大）・・・グループ数 ○サインペン・・・グループに1～2本 ○ワークシート（個人用）・・・人数分
主な活動	①グループで相談しながら「地域のよさ」を考える。 ②グループで出し合ったものを紹介し合う。 ③気付いたことや感想を紹介する。
気を付けること	○講座に、地域の民生委員や区長さん方に参加してもらったり、「地域のよさ」（ひと・もの・こと）を把握する支援をお願いすると効果的である。
備考	○子どもたちが、総合的な学習の時間や生活科で「地域を知る」学習を行った後に、その様子を聞くことで子どもの考えや思いを知ることができ、親の学びとなる。 ○参加者の実態に合わせて、「出し合う」時間より「紹介し合う」時間を長くするなど、1つ1つの活動の時間を弾力的に扱う。
スタート編との 関連	なし

【プログラム22：地域の子どもは地域みんなで育てよう
～ステキな「ひと・もの・こと」～】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	1. ねらいを確認する。【2分】 [キーワード] ○地域のよさ、ひと・もの・こと
40分	全体	2. 「地域のよさ」を考える。【18分】 (1) 活動のやり方を知る。〈5分〉 ○子どもがお世話になっている人、自分がお世話になっている人、地域で頑張っている人の例を紹介する。 例：「子ども110番」のシール、交通指導員や民生委員さんの写真、どんどや、公民館等の写真や実物を見せる。
	グループ	(2) グループで相談しながら、応用紙に次のことがらを書き込む。〈13分〉 ○子どもが地域でお世話になっている人やかかわりのある人（交通指導員さんなど） ○自分や家族とかかわりのある人（相談できる人やお世話になっている人など） ○地域で頑張っている人（老人会や婦人会等で活動している人など） ○地域にある大切にしたいもの（場所）や昔からある行事等
	全体	3. 自分たちの出し合ったものを紹介し合う。【15分】 紹介の仕方は、実態に応じて工夫する。 例：①全体の前でグループごとに発表する。 ②グループ内で発表役と見る役に分かれ、それを交代して行う。
	全体	4. 3の活動を通して気付いたことや感想を紹介する。【7分】
3分	全体	5. まとめ 【3分】 ※進行役ではなく、地域コーディネーターや民生委員さんの話でまとめる方法もある。 [ポイント] ・地域には、子どもや私たち大人を支えてくれる方がいる。 ・地域のために進んで働いている人やこの地域にしかない場所や残していきたい行事などもある。 ・私たちが、地域を見つめ、良さを知り、地域全体で子どもたちを見守っていこう。

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「地域のよさ、ひと・もの・こと」をキーワードに講座を進めていきたいと思ひます。

・キーワードの提示。

2. 「地域のよさ」を考える

① 方法を知る

○（交通指導員さんや民生委員さん方の写真を見せながら）この方は、だれか知っていますか？
（参加者の声を聞いて）そうです。子ども達の登下校中に交通指導して下さる指導員の●●さんです。
（どんどやの写真を見せながら）これは何かわかりますか。
（参加者の声を聞いて）そうです。毎年行われるどんどやの写真です。みなさんは参加されたことがありますか。
もう1つ、（こども110番のシールを見せながら）これは何か知っていますか。
（参加者の声を聞いて）そうです。こども110番の家に貼ってある目印のシールです。
みなさんは、子どもの通学路のどこにこのシールがあるかわかりますか。
今日は、子どもや自分がお世話になっている人やかわりのある人、地域で頑張っている人、地域にある大切にしたいものや行事などについて、みなさんで考えてみたいと思ひます。

・事前に写真や具体物の用意をする。
例：
◇交通指導員や民生委員さんの写真
◇こども110番の家のシール
◇どんどや、地域の公園の写真等
※ひと、もの、こと、それぞれに例があると、参加者は考えやすい。

② グループ活動

（グループ用ワークシート、サインペンの配付）
○グループの人たちで、知っているもの、知っている人など、いろいろな情報を出し合いながら書き込んでいってください。自分は直接知らなくとも、「～なことを聞いたことがある」ということも、グループの中で出してください。
（しばらく時間をとる）

・グループ用ワークシートは広めの方が見やすく、書き込みやすいのでよい。

3. 紹介する (グループ)

○今から、グループごとに考えたことの紹介にうつります。方法を説明します。

それぞれのグループの人が半分半分に分かります。グループの半分は、先に他のグループを見て、疑問点があったら質問します。残りの半分は、自分のグループにそのままいて、見に来た人に質問された時に答えます。

私が、「交代」と言ったら、見る人とグループに残る人が交代します。

紹介の仕方はわかりましたか。

グループで先に見る方を決めてください。

・グループごとに、全体に発表(紹介)する方法もある。

○それではやってみましょう。先に見る人たちは立ってください。しっかり見られて、質問や気付きを言ってください。

(▼分計る)

○交代しましょう。どうでしたか。

自分たちのグループで気付かなかったことに気付いているグループや同じ事に気付いているグループなどあると思います。今から他のグループを見る人たちも、よく見られて、質問や感想を言ってください。

・見るだけではなく、できるだけ質問や感想を伝えるようにした方が盛り上がる。

4. 紹介する (全体)

○今、全部のグループを交代で見て回ったと思います。どうでしたか。他のグループのまとめを見て気付いたことや自分たちのグループで活動した感想などを紹介してください。

(個人用ワークシートに記入してもよい)

(数名に発表してもらう)

・個人ワークシートはグループ紹介の前に配付し、見て回ったときに気付きを記入するようにしてもよい。

5. まとめ

○私たちの住んでいる地域には、子どもや私たち大人を支えている方々や地域のために進んで働いている方々があります。また、この地域にしかない場所や残していきたい行事などもあります。

○毎日生活しているこの地域ですが、知っているようで知らないこともあります。私たち大人が地域を見つめ、地域のよさを知りましょう。そして、地域全体で子どもたちを見守り、地域の力を借りながら子育てする意識をもちましょう。

「書く」負担感を与えないように、書いてもよいし書かずに話してもよいことを伝える。

【地域の子どもは地域みんなで育てよう～ステキな「ひと・もの・こと」～】

【グループ用】

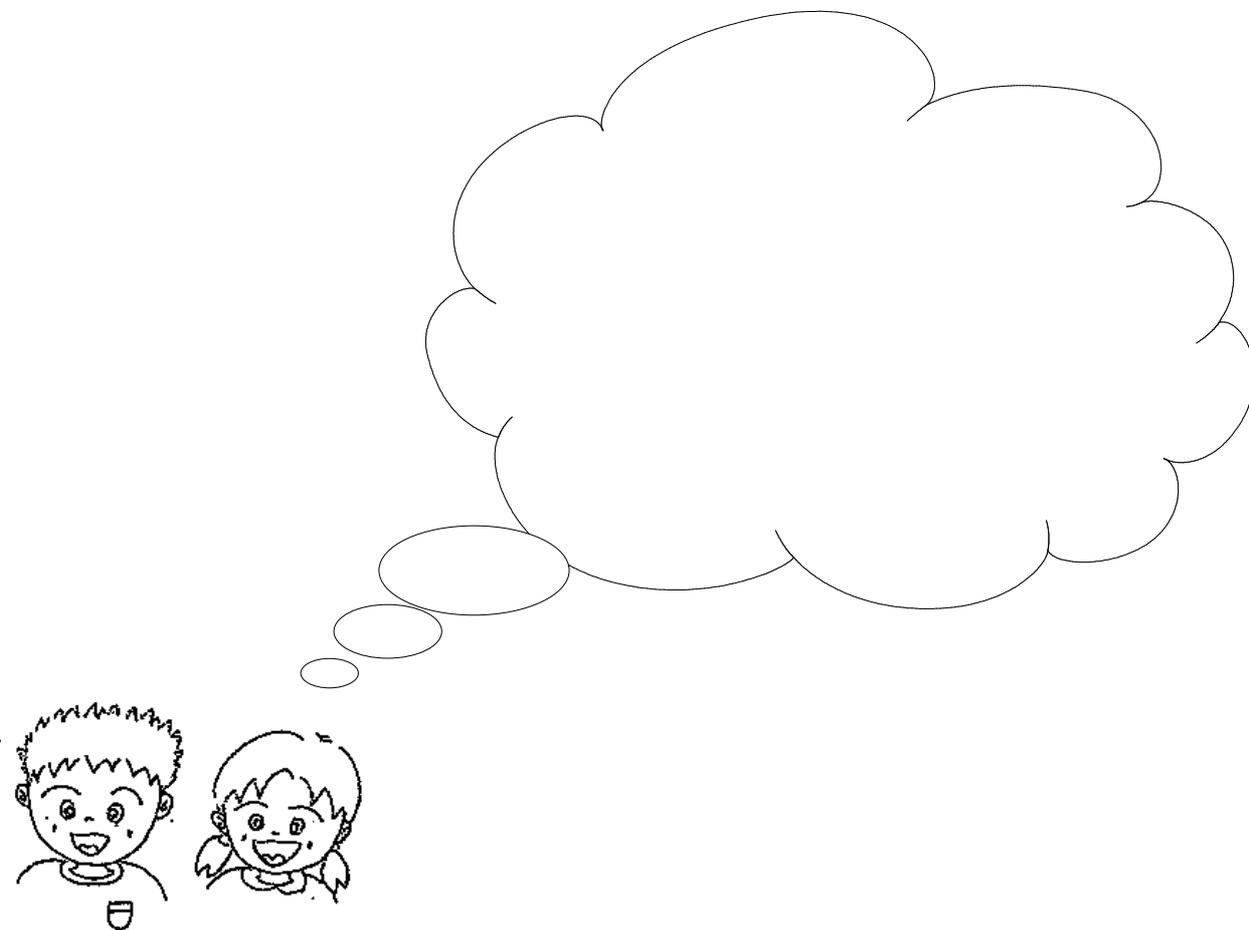
《子ども・自分・家族がお世話になっている人》
《地域で頑張っている人》

《大切にしたいもの（場所）・伝えたい行事》

【地域の子どもは地域みんなで育てよう～ステキな「ひと・もの・こと」～】

【個人ワークシート】

◇気付いたこと



☆MEMO